

る。

今後とも引き続き、住民の方々をはじめ外部のお客様に不愉快な思いをさせない職場環境づくりに努めるとともに、日常業務の中で、職員全員が心の通った応対や気持ちのよいあいさつができるよう努めたいと考えている。

問 民間での職場体験について

答 民間企業の感覚を取り入れて、職員を意識改革を行うとともに、住民の方々に対する接遇の向上を図ることは、行政の運営を行う上で、大変意義深いことであると認識している。今後先進的な事例を研究し、民間企業等への派遣研修についても検討したいと考えている。

【耕作放棄地対策】

問 行政と部落単位での農政座談会の開催について

答 優良農地における耕作放棄が危惧される中で、営農組合が集落の農地を将来誰がどのように守っていくかなど話し合いが持たれる場合に、農業支援センターからも参加させていたたいであり、今後必要請があれば集落での懇談会等に職員を出席させたいと思う。

問 高齢者増加に伴う農業公社の役割の推移について

答 農業公社への無人ヘリコプターによる防除作業の委託が増加して

おり、平成21年度には201ヘクタールの作業を実施している。今後でも農家経営の負担を少しでも軽減できる料金の設定を促し、高齢農家等の要望に応えられる作業受託を実施するよう指導していきたい。

問 農業支援センターの利用度と効果について

答 新規就農者の育成・確保については、農業研修制度の紹介や農地や空家の情報の提供、都市での就業フェアに参加するなど新規就農者の確保に努めており、平成22年度においても、新規就農者の受け入れを計画している。また、現在1名が町の農業研修制度を利用して研修を受けており、22年度には就農するの、施設設備の整備に対し支援を行いたいと思っている。

女性農業者の育成・支援については、女性の農業経営に対する位置づけを明確化し、女性の経営参画を促進するため、研修の支援および家族協定の推進を図っており、現在5組の家族が協定を締結している。また、農地の利用調整については、担い手への農地の利用集積を図っており、1月末現在の認定農業者への集積面積は104ヘクタールとなっている。

問 鳥獣害対策について

答 猟友会による捕獲の強化、集団農地への侵入防止柵の設置、認定農業者等の狩猟免許取得の支援など、

国・県の補助事業を導入し、対策を講じている。また、国・県の補助事業の対象とならない、まとまりのない農地については、中山間地域直接支払制度の活用を推進している。さらに、シカは頭数調整のほかに有効な対策がないのが実状であり、22年度には狩猟期間においても買い上げを行い、捕獲の強化に努めたいと考えている。

【条例制定】

問 古紙等の違法持ち去り禁止に関する条例制定について

答 古紙持ち去り禁止にかかる条例制定については、被害の状況が、古紙のうち新聞紙に限られており、また、平成19年度回収実績から推測した抜き取り量としては19%程度であるので、今年度の収集実績の状況を把握したうえで、持ち去り禁止の条例を制定するかどうか検討したいと考えている。

当面は、職員によるパトロールの強化と警察署との連携により、古紙の抜き取り防止に努めていくとともに、住民に対してはなるべく当日に古紙を排出していただくようこれからも呼びかけを続けていきたいと考えている。

問 公共の建設物等への、民間広告許可の条例制定について

答 先進的な取り組み事例を見てみると、広報誌や封筒、各種通知書等の印刷物への広告掲載、自治体の

ホームページへのバナー広告の掲載、公共施設の壁面や公用車の車体等への広告掲載などを行い、多額の広告事業収入を確保している自治体も多くみられる。

厳しい財政運営が続く状況の中で、町においても、それらの先進事例を参考に、少しでも新たな財源を確保できるよう取り組みたいと考えている。

◆横山 二郎 議員

【町内橋梁の改修】
問 町内で、現在改修中橋梁について

答 現在のところ特に損傷の激しかった下大野橋以外は修繕を行なっていない。

問 これから5年程度の補修計画について

答 今年度は、橋長15m以上の橋梁点検業務を79橋実施し、その内40橋については長寿命化修繕計画を策定した。なお、来年度は、残りの39橋の長寿命化修繕計画の策定と、橋長15m未満の橋梁137橋について点検、平成23年度には、その137橋について長寿命化修繕計画を策定することとしている。

これにより、平成23年度末には町内のすべての橋梁について調査と長寿命化修繕計画が終わることとなるので、今後はそれに基つき、順次、年度ごとに桁、橋脚、橋台、高欄、床版等の修繕、あるいは架け替えの